



福岡医発第 579 (地)

令和元年 5 月 24 日

各 医 師 会 長 殿

福 岡 県 医 師 会
会 長 松田 峻一良
(公 印 省 略)

落雷・豪雨等災害による停電等に備えた在宅人工呼吸器等使用患者への
対応について

今般、福岡県保健医療介護部長より標記の件について協力依頼がありました。

本件は、今後、時節柄、落雷・豪雨等災害による停電等の発生の可能性が高まることから、在宅人工呼吸器等使用患者への注意喚起として別添の「人工呼吸器等を使用されている皆さまへ」及び「災害時の手引き」を配付すること、及び下記事項について、改めて医療機関で確認いただくことについて依頼するものです。

つきましては、貴会におまれましたも本件についてご了知いただくとともに、貴会会員への周知方につきご高配賜りますようよろしくお願い申し上げます。

なお、県内の訪問看護ステーションには、別添のとおり直接通知されております。

記

○平常時から確認していただく事項

- ・人工呼吸器は、定期的に医療機器メーカーのメンテナンスを受けている。
- ・内部バッテリー及び発電機の充電状況、稼働状況を定期的に確認している。
- ・外部バッテリーが定期的に交換されているか、確認する。(推奨期間 2 年間)
- ・蘇生バッグ (アンビュー) は、すぐに使えるよう劣化がないか確認する。
また、療養者に付き添う方に、使用方法を説明し、練習をしておく。
- ・停電状態が長時間になる場合、緊急避難的に入院可能な医療機関について、主治医の先生と相談をしておく。
- ・緊急時の移送手段や支援者について確認できている。
- ・緊急時連絡表が作成され、関係者が情報を共有している。

以上

※「人工呼吸器等を使用されている皆さまへ」及び「災害時の手引き」掲載HP

<http://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/zaitaku-teiden-sonae.html>

(公印省略)

1 高ケ推第379号
令和元年5月17日

公益社団法人福岡県医師会 会長 殿

福岡県保健医療介護部長

落雷・豪雨等災害による停電等に備えた在宅人工呼吸器等使用患者への
対応について (依頼)

今後の落雷・豪雨等災害による停電に備えた対応として、別添写しのとおり訪問看護ステーションを通じ、下記の内容について在宅人工呼吸器等使用患者様への注意喚起及び医療機関への協力依頼を行ったところです。

つきましては、貴会会員におかれましても、停電に備えた危機対応として、医療機関間で連携を図り、緊急時の入院対応につきまして調整を図り、在宅の患者様が安心して療養できますよう御協力願います。

記

○ 平常時から確認していただく事項

- ✓ 人工呼吸器は、定期的に医療機器メーカーのメンテナンスを受けている。
- ✓ 内部バッテリー及び発電機の充電状況、稼働状況を定期的に確認している。
- ✓ 外部バッテリーが定期的に交換されているか、確認する。(推奨期間2年間)
- ✓ 蘇生バッグ(アンビュー)は、すぐに使えるよう劣化がないか確認する。
また、療養者に付き添う方に、使用方法を説明し、練習をしておく。
- ✓ 停電状態が長時間になる場合、緊急避難的に入院可能な医療機関について、
主治医の先生と相談をしておく。
- ✓ 緊急時の移送手段や支援者について確認できている。
- ✓ 緊急時連絡表が作成され、関係者が情報を共有している。

福岡県保健医療介護部 高齢者地域包括ケア推進課
在宅医療係 浦田

電 話 : 092-643-3275 (直通)

F A X : 092-643-3253

メール : urata-n4188@pref.fukuoka.lg.jp

各医師会通知

(公印省略)

写

1 高ケ推第379号
令和元年5月17日

各訪問看護ステーション管理者 殿

福岡県保健医療介護部
高齢者地域包括ケア推進課長

落雷・豪雨等災害による停電等に備えた在宅人工呼吸器等使用患者への
対応について (依頼)

貴職におかれましては、日頃から医療機関等と連携を図り、緊急時の連絡体制や在宅患者様への対応について御確認いただくなど、在宅人工呼吸器等使用患者が安心して療養できるよう御対応いただいていることと存じます。

今後、時節柄、落雷・豪雨等災害による停電等の発生が高まることから、「人工呼吸器等を使用されている皆さまへ」及び「災害時の手引き」を在宅人工呼吸器等使用患者様へ配布していただくとともに、下記事項について改めて御確認いただきますようお願いいたします。

記

○ 平常時から確認していただく事項

- ✓ 人工呼吸器は、定期的に医療機器メーカーのメンテナンスを受けている。
- ✓ 内部バッテリー及び発電機の充電状況、稼働状況を定期的に確認している。
- ✓ 外部バッテリーが定期的に交換されているか、確認する。(推奨期間2年間)
- ✓ 蘇生バッグ(アンビュー)は、すぐに使えるよう劣化がないか確認する。
また、療養者に付き添う方に、使用方法を説明し、練習をしておく。
- ✓ 停電状態が長時間になる場合、緊急避難的に入院可能な医療機関について、主治医の先生と相談をしておく。
- ✓ 緊急時の移送手段や支援者について確認できている。
- ✓ 緊急時連絡表が作成され、関係者が情報を共有している。

※ 「人工呼吸器等を使用されている皆さまへ」及び「災害時の手引き」の電子データは県ホームページ(<http://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/zaitaku-teiden-sonae.html>)に掲載されています。

福岡県保健医療介護部 高齢者地域包括ケア推進課
在宅医療係 浦田
電 話 : 092-643-3275 (直通)
FAX : 092-643-3253
メール : urata-n4188@pref.fukuoka.lg.jp

人工呼吸器等を使用されている皆さまへ

落雷や豪雨等の災害による停電に備え、今一度ご確認をお願いします。

福岡県保健医療介護部高齢者地域包括ケア推進課



チェック 1

☐ 定期的に医療機器メーカーのメンテナンスを受けましょう。

ご使用の医療機器については、人工呼吸器のように、通常一定の期間で、機器販売会社が定期点検をするものもあります。

外部バッテリーや加湿器など、周辺機器も含め定期点検を受けましょう。

チェック 2

☐ 非常時に必要なもの（外部バッテリーや酸素ボンベ）は常備しておきましょう。

非常時には外部バッテリーが有効です。できるだけ外部バッテリーを準備しておきましょう。

酸素濃縮器を使用されている方は、主治医などと相談し必要に応じ酸素ボンベをご準備ください。2時間程度の停電の場合、400Lボンベが3本（または1500Lボンベ1本）程度あると安心です。

チェック 3

☐ 外部バッテリーは、定期的に新しいものと交換し、常に充電しておきましょう。

外部バッテリーには寿命があります。外部バッテリーは常に十分に充電された状態にしておきましょう。寿命を越えた外部バッテリーはフル充電ができないため、稼働時間が極端に短くなるおそれがあります。外部バッテリーには購入の年月日を貼り、外部バッテリーの寿命の期限を確認し、期限が過ぎたら早めに新しい外部バッテリーと交換しましょう。

チェック 4

☐ 停電時電源異常時にアラームが正しく作動するか確認しておきましょう。

人工呼吸器等には電源の異常を知らせるアラーム機能がついています。停電等電源に異常があった場合に正しく作動するかあらかじめ確認しておきましょう。

チェック 5

☐

療養者に付き添う方は、蘇生バック（アンビューバック）での人工呼吸ができるようにしましょう。

蘇生バックは、人工呼吸器が使用不可能な状態になった場合、最も呼吸確保に役立つものです。

いつでも使えるように、療養者の傍らに常に準備しておいて下さい。また、ご家族等は蘇生バックの適切な使用方法を医師等から指導を受け、劣化して穴などあいていないかチェックを行い、いつでも使えるようにしておいて下さい。



チェック 6

☐

吸引器は設置型の他に、充電式（内部バッテリーで作動するポータブル型）あるいは足踏み式、手動式のいずれかの吸引器を準備しましょう。

吸引器は、病状に合った吸引力のあるものを医師等と相談して選択してください。使用方法を確認し、いざという時にすぐに使えるようにしておいて下さい。

チェック 7

☐

蘇生バックや外部バッテリーなどの代替機器の利用時間には限りがあります。停電状態が長時間続く場合に備えて、主治医の先生と緊急時の入院先について、相談しておきましょう。

また、緊急連絡表を作成し、移動手段や支援者についても確認しておきましょう。

不測の事態に備え、緊急時の入院先について、平時から主治医の先生と相談しておきましょう。

停電時は固定電話が通じない場合があります。事前に停電時に使用できるかどうか確認のうえ、使用できない場合は、緊急の連絡方法を確保しておきましょう。

作成した緊急連絡先は身近なところに置き、療養者に関わる方々が情報を共有しておくことも大切です。

チェック 8

☐

もし、停電になった場合、窓を開けるなどして室温調整を行うとともに、こまめな水分補給を行い、熱中症を予防しましょう。

不測の事態により停電が実施された場合には、窓を開け、遮光カーテンやすだれの活用により、室温調整を行いましょう。

熱中症は、高温多湿な状態で、体内の水分や塩分のバランスが崩れたり、体温調節機能がうまく働かないとおこりやすくなります。症状は、大量の汗をかく、吐き気がする、体のだるさなどです。

予防のためには、「水分補給」と「暑さを避けること」が大切です。こまめな水分補給につとめ、通気性の良い衣服等で体温調節を心がけましょう。時々、体温測定をし、体温が上がりそうな場合、保冷剤・氷・冷たいタオル等で体を冷やしましょう。

◇災害備蓄品と非常用持出用品リスト

災害時に備えて、災害備蓄品と非常用持出用品をすぐに手に取れるように、ベッドの下などにひとまとめにして用意しておきましょう。

必要な衛生材料等については、あなたの受け持ちの主治医又は看護師に確認してもらいましょう。

品目	チェック欄	品目	チェック欄
① 蘇生バッグ（アンビューバッグ）		⑦ 外部バッテリー（充電済） ※外部バッテリーは人工呼吸器に常に接続した状態にしておくものがあります。	
② 気管カニューレ			
③ 予備吸引器 □手動・□携帯・□足踏み式		⑧ 経管栄養剤（1週間分）	
④ 予備の吸引チューブ（約10本）		⑨ 服薬（1週間分）	
⑤ 予備の人工呼吸器回路（1セット）人口鼻		⑩ その他 □ □ □ □	
⑥ 衛生材料 □ガーゼ □アルコール綿 □滅菌グローブ □蒸留水（2ℓ×約6本） □消毒薬 □オムツ等 □スプレー式手指用消毒液 □50ml注射器（約5本）			
非常用持出袋 （すぐに手に取れるようにベッドの下などにひとまとめしておきましょう）			
※懐中電灯・スリッパ・ラジオ・簡易トイレ・飲料水・食料品・軍手・タオル・ティッシュペーパー・ウェットティッシュなど ※健康保険証・医療券・障害者手帳・服薬手帳など			

九州電力では、利用登録された方に、台風など非常災害時の停電情報や電気の需給が大変厳しい見通しとなった場合のお知らせ、大規模地震発生時の原子力発電所の運転状況等の緊急情報などをメールでお届けするサービスがあります。

携帯メールサービスに関する
お問い合わせ

お問い合わせ電話番号 **0120-411-910**

※ 受付時間：月曜日～金曜日 9時～17時
（土日祝日および年末年始を除く）



在宅人工呼吸器などを使用している方へ

災害時の手引き

災害時に備えて、必要事項をこの手引きに記入し、準備をしておきましょう。この手引きは、人工呼吸器など、医療機器の側に置き、避難時には持っていきましょう。



◆◆ 備えのポイント ◆◆

- 蘇生バッグ（アンビューバッグ）は、いつでも使える状態にしておきましょう。
 - 緊急時にすぐに使えるように、使い方の確認、練習をしましょう。
 - 複数の人が蘇生バッグの操作をできるようにしましょう。
- 人工呼吸器や吸入・吸引器のバッテリーは、充電しておき、緊急時に常使用できる状態にしておきましょう。
 - 外部バッテリーは使用してなくても2年程度での交換が推奨されています。定期的に新しいものと交換して下さい。
- 吸引器は設置型の吸引器の他に、充電式の内部バッテリーで動作するポータブルあるいは足踏み式、手動式のいずれかの吸引器を準備しましょう。
 - 吸引器のバッテリー持続時間（連続使用）を把握しておきましょう。

概ね _____ 分

- 部屋の安全点検と対策を行いましょう。
 - ベッドの周囲には落ちてくると危険な物はおかないようにしましょう。
 - 家具が倒れないように固定しましょう。
 - 人工呼吸器、吸引器などが転倒しないよう工夫しましょう。
 - 懐中電灯などを入れた、非常用持出袋はすぐに手に取れるように、ベッドの下などにおきましょう。保険証、医療券、服薬手帳なども一緒にまとめておくといでしょう。
- 災害時の避難場所、避難ルートについて確認しておきましょう。
- 緊急時の対応については、あなたの支援者（主治医、訪問看護師、保健師など）と日頃からよく相談しておきましょう。

《 災 害 時 緊 急 連 絡 票 》

◇療養者の基本情報

氏 名		生年月日	
住 所		電 話	
主な介護者氏名		携帯電話	

◇緊急連絡先リスト



名 称	続柄・担当者	電 話	住 所
家族・親戚・友人			
かかりつけ 医			
専 門 病 院			
訪問看護ステーション			
訪問看護ステーション			
人工呼吸器取扱業者			
在宅酸素 取扱業者			
吸引・吸入器取扱業者			
市 町 村			
消 防 署			
避 難 所			
保 健 所			
居宅介護支援事業所			
ヘルパーステーション			
民 生 委 員			
電 力 会 社			
災害伝言 ダイヤル		171	
福岡県 防災ホームページ	http://www.bousai.pref.fukuoka.jp/		

※記入にあたっては、主治医や訪問看護師、保健師に相談しましょう。

◇療養者の身体・日常生活リスト

情報記入日：平成 年 月 日

病 名		
項 目	状 態	
呼吸障害	なし・あり	方法：気管切開による侵襲的陽圧呼吸療法(TPPV)・ 鼻マスク等による非侵襲的陽圧呼吸療法(NPPV)・在宅酸素療法 気管カニューレ：サイズ mm：製品名
吸 引	なし・あり	吸引チューブ：サイズ 吸引回数： 回/日(うち夜間 回/日)
栄 養	経口・経管等	方法：経鼻・胃ろう・IVH・その他() 種類：経管栄養摂取量： ml/日・水分摂取量： ml/日
排 泄	自立・ その他	排尿 方法：膀胱カテーテル留置・自己導尿・他() 通常量： ml/日
		排便 方法：浣腸・他() 回数： 回/日
移 動	自立・要介助	方法：ストレッチャー・車椅子 注意事項：
コミュニケーション	会話・その他	方法：筆談・文字盤・意思伝達装置・その他() 具体的事項：
薬剤アレルギー	なし・あり	ありの場合の薬剤名：

◇人口呼吸療法などの詳細(設定)

気管切開による侵襲的陽圧呼吸療法			鼻マスク等による非侵襲的陽圧呼吸療法		
記 入 日	年 月 日	年 月 日	記 入 日	年 月 日	年 月 日
種類・機種			種類・機種		
換気モード			換気モード		
1回換気量			I P A P		
換気回数			E P A P		
吸気時間			吸気時間(Ti)		
感 度			B P M		
気道内圧 下限アラーム			ライズタイム		
気道内圧 上限アラーム			装 着 時 間	24時間・夜間 その他： 時間	24時間・夜間 その他： 時間
P E E P 圧			バッテリー持続時間 (内部+外部)		
ピーク圧 (参 考 値)			在宅酸素療法		
装 着 時 間	24時間・夜間 その他： 時間	24時間・夜間 その他： 時間	酸 素 流 量	ml/分 時間	ml/分 時間
バッテリー持続時間 (内部+外部)					